

第 3 章 事前調査等

3.1 森林整備箇所の選定

各事業地区において、間伐等の森林整備が必要な森林を、表 3.1 に基づき選定した。

選定に当たっては、各町村役場及び森林所有者の意向を踏まえ、林野庁と協議を実施した。さらに、森林状況や空間線量率を考慮し、森林整備箇所及び整備内容について協議・調整を行った。

表 3.1 森林整備箇所の選定内容

事業地区	森林整備の目標	選定面積等
富岡町 大倉山 森林公園	当該地区は森林公園として、地域住民の憩いの場や町内小中学生の野外活動の場として利用されてきた経緯があり、町としてその再開を目指している。このため、保健・レクリエーション機能及び文化機能の維持・向上を目標とし、景観や風致に配慮した森林整備を進める。また、この森林は土砂流出防備保安林に指定されていることから、土砂災害の防止や斜面の安定化を図るため、森林の土砂流出防備機能の維持・向上にも十分に配慮した整備を実施する。	◇対象森林面積約 17ha において、令和 6 年度選定面積約 4.8ha
大熊町 日隠山	当該地区は、気軽に登山を楽しめる山岳として、町内外から登山客が訪れるレクリエーションの場として利用されてきた経緯があり、町としてその再開を目指している。このため、保健・レクリエーション機能及び文化機能の維持・向上を目標とし、景観や風致に配慮した森林整備を進める。	◇対象森林面積約 13ha において、令和 6 年度選定面積約 4.3ha

飯 舘 村 大 火 山	当該地区は、震災前に「つつじの森」の整備が進められ、村民を中心に散策スポットとして利用されていた経緯があり、村としてつつじの森周辺も含めて、飯舘村の魅力のひとつである豊かな自然と触れ合える場を目指している。また、かつて牧場として利用されていた「つつじの森」周辺の森林は、天然更新により落葉広葉樹林が形成され、ササや灌木が密生して藪状となり、林内は薄暗く景観が良好とはいえない状況にある。このため、森林の健全性や安全性を向上させるとともに、景観や風致にも配慮した森林整備を進める。	◇対象森林面積約 15ha において令和 6 年度選定面積約 5.0ha
------------------------	--	---

3.2 森林内の空間線量率の把握

森林整備を実施する区域において、森林内の放射線環境を把握するため、空間線量率の測定を実施した。測定結果は速やかに整理し、信頼性を確保するため、信頼できる公表データとの比較分析を行った。

(1) 測定点の考え方

森林整備を実施する区域を原則 20m×20m のメッシュに分割し、その中心点を測定点として空間線量率の測定を実施した。測定は、森林整備の施業前、施業後にそれぞれ実施した。また、測定時に降雨や降雪がある場合は、測定を延期した。

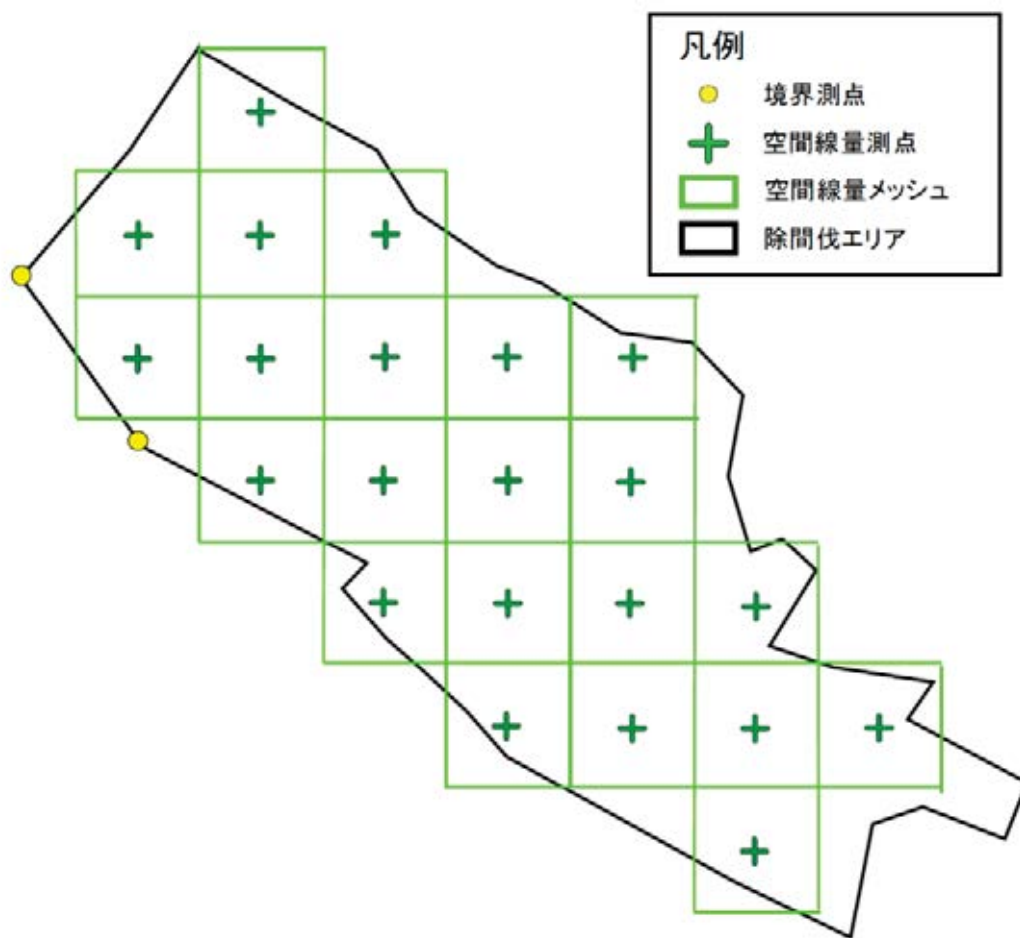


図 3.1 20mメッシュ測定点の事例

(2) 公表データとの比較分析の考え方

信頼性の高い公表データとして、原子力規制委員会が実施した航空機モニタリングで得られたデータを使用した。定点測定値との比較分析には、第17次：令和4年〈2022年〉10月21日時点及び第18次：令和5年〈2023年〉11月27日時点のデータを利用した。

3.3 各町村役場及び森林所有者への事業説明

森林所有者からの施業同意に当たっては、各町村役場と調整した上で対応を進めた。また、森林所有者への事業説明は、各町村役場を通じて行い、里山再生事業への理解を得られるよう努めた。